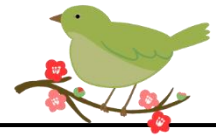




やつしる



< 2月の全校朝会の話より >

2月本校では、スクールワイドPBS実施期間となります。(スクールワイドPBSとは、児童の望ましい行動を育てるという発想のもと、場面ごとに行動目標を設定し、学校全体で全ての児童を対象に取り組む組織的アプローチのことです)

- ・〇〇分間は、自分で考える。 ・〇〇分間、自分で考えて正解にたどりつく。
 - ・〇〇分間、自分で考えて、それでも分からないときは、何が分からないかを先生や友だちに話す。
- ※ 先生や友だちはヒントや考え方を教えてあげましょう。
- ※ そして、今月は、この行動ができていない児童をその都度言葉やカードで認め励ましていきます。ご家庭でもご協力いただけるとありがたいです。

全校朝会で、児童に対してこの取組と「**あきらめずに、まずは、自分で考えてみましょう**」という実践行動目標の大切さや必要性について話をしました。

□ その行動が(まず自分で考える)がなぜ大切なのか

「いろいろな問題にあって、見事に結果を出した時、人は、自信を受け取ります。得られた自信は、これから出会うさらに難しい問題に対しても、「必ず出来る」という成功を強く信じて、諦めない気持ちに繋がります。そして、難しい場面でも他人が出来なくても、自分なら出来るという強い心をもつことができます。

「出来ない」「無理だ」「面倒だ」という、マイナスの言葉やイメージは、やる気を下げ、成功を遠ざけてしまいます。また、出来ないことをすぐにあきらめてしまう傾向があると、仲間や身内からは頼りにされません。でも、頑張り過ぎはいけません。人に頼ることは大切です。どうしても分からない時やこまったときには、勇気をもって人を頼ることも大切です。

『一年後の成功を想像すると、日々の地味な作業に取り組むことができる。』サッカー日本代表だった本田圭佑選手の言葉です。「例え今が面白くなくて辛くても、将来の成功のイメージが、辛さを乗り越えるのに役立つ」という意味になります。

「まずは、自分で考えてみる」 この機会にあきらめない習慣をつけましょう。きっと、これからの自分の強い味方になってくれると思います。将来の目標を明確にして、目の前の小さなことを投げ出さずに、コツコツと取り組みましょう。

< 読書感想文 >

令和4年度「第28回国富町読書感想文コンクール」の小中学生の作品を読む機会がありました。どの作品も、本との出会いを通して感動したことや考えたこと、これからの目標や将来の夢等を文章にして、表現する力、豊かに感じる心などを高めていることがよく分かりました。今までの読書感想文も気になって、令和3年度、令和2年度、令和元年度と冊子を探して読んでみました。すると、同じ人の作品をいくつか読むことができました。確かに、その人の感想文は、語彙が増え、自分の言いたいこと伝えたいことがはっきり分かり、読み取る力や考える力が高まっているように感じました。

読書は、知りたいことを知ることができ「もっと知りたい」という気持ちを満たすことができます。また、自分の知らない仕組みや考え方を知ったり、主人公と自分を比べたりして、自分のことをより深

く知ることもできます。なにより、知識が増え考える力がつきます。これからの自分に役に立つことばかりです。

でも、今、本を読む人が減っています。その1番の理由は、時間がないからだそうです。他の理由に「勉強の延長と考えると苦痛だから」というのもありました。よいことだと分かっているのに習慣化できないことは、わたしもありますが、これからの自分のために、毎日少しずつ文章を読む習慣をつけることは有意義なことではないでしょうか。

< 児童作文 >

「ちりも積もれば」 緒方 りの 宮崎日日新聞 12月29日 若い芽掲載

私が座右の銘にしたい言葉は、「ちりも積もれば山となる」だ。この言葉は、小学生の座右の銘のランキングに入っていたことわざだ。語源は、インドの論書であり大品般若経という仏教の教えが書かれた書物の注釈書である。「大智度論」が由来だと考えられている。私がこの言葉を選んだ理由は、自分でやってみないと分からない、小さいことの積み重ねをがんばれと励ますためだ。私は、二重跳びの練習を3年生から3年間ぐらいつと家でほぼ毎日やってきた。でもできなくて、できる人がうらやましかった。でもずっと練習をしていたら5年生でできるようになって、「よっしゃっ」とさげびたいくらいうれしかった。だからどんなに小さいことでも失敗しても、あきらめなければ絶対できることが分かった。私は、何か分が分からなかったり、できなかつたりしてあせることがある。でも私の大切な座右の銘の「ちりも積もれば山となる」を思いだし、あせらずいろいろなことをがんばっていきたい。

「あきらめない心」 西田 将照 宮崎日日新聞 1月15日 若い芽掲載

ぼくが大切にしたい言葉は、「やってみないと分からない」だ。これは、ぼくが3年生のときにソフトボールのコーチが言った言葉だ。ぼくが、この言葉を選んだ理由は、自分のあきらめやすい性格を直したいという思いで選んだ。ぼくは、ソフトボールの試合が始まる前に、「もう無理だ」と思ってしまって試合に負けてしまったことがある。試合が始まる前にあきらめてしまったから自分がなさげなくて、いやになってこうかいた。ところが、強いチームとあたった時、「どうせ無理だ」と思っていたけど、友だちのお父さんが急に「やってみないと分からないよ」と言われてぼくは、確かにそうだなと思って試合に臨んだ。負けるかもと思ったけどあきらめずがんばったら、相手チームに勝った。この出来事をきっかけに、やってみないと分からないんだと思った。ぼくは、あきらめない心や「やってみないと分からない」という気持ちをもてる人になりたい。「やってみないと分からない」をこれからの座右の銘にしたい。

< 食に関する授業 >

食に関する授業を1月25日(水)
6年生が行いました。

町の栄養教諭の先生や栄養士の方のご支援をいただきながらバランスのよい食事についてポイントを復習して実際に調理実習を行いました。

作った料理は「ジャーマンポテト」ジャガイモの皮を包丁でむく作業は、見ている方が力が入りましたが、どの班も協力して楽しそうに調理していました。



【 食に関する授業「ジャーマンポテトづくり」 】